

第 1 回 CRA 災害・救急医療対応国際会議で特別講演を行いました (2024/7/29-31)

テーマ：今こそ前へ進めよう

会場：タイ政府コンベンションセンター（バンコク、タイ）

2024年7月29-31日に、第1回チュラボン・ロイヤル・アカデミー（CRA）災害・救急医療対応会議が開催され、災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）が特別講演とパネルディスカッションに登壇しました。

CRA は医学部・健康科学部などを有する王立大学で、あたらしく災害・救急医療センターを立ち上げたことをきっかけに、第1回となる CRA 災害・救急医療対応国際会議を開催し、スウェーデン、米国、インドネシア、フィリピン、ニュージーランド、日本などから災害・救急医療の専門家が招待されました。

1日目は、CRA が災害・救急医療に対して本格的に取り組んでいることを示す開会式ののち、災害医療の考え方がスウェーデンの専門家から示されました。バンコクにあるタイ国救急医療対応本部（NIEM）で災害医療対応の技術を競い合うラリーが開催され、タイの各地から集まった災害救急医療対応チーム（EMT）がさまざまなシナリオに本番さながらに対応しました。NIEM はタイ全土における病院前の救急医療体制管理の本部であり、タイの医療体制にもとづいて、公立・私立にかかわらず非常事態に対する救急医療の考え方、タイの多様な自然環境への対応能力などを学ぶことができました。

江川教授は、2日目に「災害研究の最前線」、「災害の健康被害：高齢化社会への対応」と題して2つの講演を行いました。「災害研究の最前線」においては、災害リスクを決定づけるハザードと曝露、脆弱性、対応能力の関係性と、オールハザードアプローチをとる WHO の災害・健康危機管理枠組と、地震、津波、台風などの自然ハザードだけではなく、放射線、ウイルス、化学物質など現実のさまざまなハザードによる災害について紹介し、災害の多様性に応じた様々なリサーチクエスチョンが存在しうることを示しました。また、「災害の健康被害：高齢化社会への対応」においては、仙台防災枠組がはじめて「災害は健康に被害を与える」ことを明記した国際枠組であることを説明し、災害に対するレジリエンスを高めることの重要性を説明しました。また、各国の平均寿命と災害リスクは反比例することを示し、普段の保健医療水準を向上させることの重要性を強調しました。

3日目には、「ASEAN 地域における将来の災害レジリエンス」と題するパネルディスカッションにおいて、災害が多発するASEAN地域においてどのような方策が可能であるかについて議論がなされました。江川教授は若い研究者、実務者が新しいリサーチクエスチョンをもち研究を進めること、そしてその成果を世界に発信することの重要性を説明しました。ASEAN 地域で災害医療体制の標準化と学術的な深化が急速に進められています。

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野）
（次頁へつづく）



開会式



タイ国救急医療対応本部（NIEM）で行われた災害医療対応ラリー



NIEM はタイ全土の救命救急チームの教育を行っており、専用のシミュレーション室がいくつもある



病院火災で停電した集中治療室に煙が入る様子を模擬するシナリオ



テーブルトップシミュレーションではスウェーデン製のシミュレーションキットが用いられていた



NIEM はタイ全土の救急医療を監視しており、公立・私立にかかわらず近くの病院に搬送することができる